

かれ少なけれ電力負荷といわれるのである。鉄道でいうならば、電気運転、駅舎照明、荷役機械、工場用、信号等すべて電力負荷であって、鉄道においてもその用途はぼう大で、電力を切り離して鉄道を考えることはできない。負荷を分類すると、電灯負荷、動力負荷および電気を原料とする負荷の3つに大別することができる。前述の電気運転用電力や、荷役機械用電力、工場用電力等は動力負荷であり、一般家庭の照明、街路灯、国鉄の駅舎照明等は電灯負荷である。肥料工業用電力は、電気を原料とする電力負荷である。また直流負荷、交流負荷という分類もある。電気運転用電力(交流電化区間を除く)、化学工業用電力等は直流負荷であり、それ以外のものすなわち工場用電力、一般家庭用電力、工事用電力等はすべて交流負荷である。したがって電力負荷の中では交流負荷が圧倒的に多い。

電力需給上からいうと、電力負荷は電気料金上の取扱では、定額電灯、従量電灯、大口電灯、業務用電力、小口電力、大口電力等に区別してある。使用の状態から分類すると、1年を通じて使用する常時電力負荷、1年の中一定の期間にかぎり連続使用する期間常時負荷、1日のうち夜間一定の時間にかぎって使用する深夜間電力負荷、1箇年未満で臨時に使用する臨時電力負荷等の別があり、料金的な取扱に差異がある。(長岐靖隆)

でんりょくぶんくちょう 電力分区長 電力区におかれる職で、区長の指揮をうけて担当区域内の電灯・電力設備の保守および工事、ならびに電路開閉に関する作業の計画をたて、電機掛、電力工手長、電力工手を指導して、これらの作業の遂行にあたるものである。このような職務を遂行するために常に担当区域内の電灯・電力設備を巡視し、所属員を督励して保守の万全を期するとともに、工事施行にあたっては、あらかじめ工事の工程・方法等必要な事項を指示して、工事の円滑な遂行を期さねばならない。電路の開閉にあたっては、関係箇所と十分打合せを行った上、これを行わなければならない。また毎日担当業務の一般状況を詳細に区長に報告しなければならない。

電力分区は電灯分区、配電分区、送電分区に分化する前の形態であって、電力分区ではこれら3つの分区で行っている作業を全部行っているわけである。(加藤誠次郎)

でんろかいへいき 転路開閉器 (英) commutating switch

電車線電圧の異なる区間、たとえば600V区間と1,500V区間とを直通運転する必要を生ずることがある。このような線区に使用される電気車には適当な方法により、主回路および補助回路に接続される機器を、電車線電圧に応じて接続変更をする。この目的に使われるスイッチを転路開閉器という。主回路は主抵抗器および主電動機の接続を変更し、補助回路では空気圧縮電動機、電動発電機等の補助回転機の接続を変更する。(沢野周一)

でんわがかり 電話掛 電務区・駅におかれる職で、電務区長または駅長の指揮をうけて、鉄道電話交換作業に従事するものである。現在のところ全員女子職員をもってこれにあてている。鉄道専用電話の交換作業に従事するものには、別に資格を必要としないが、一般の電話と接続している交換台の電話交換を行うものは、有線電気通信法による一定の資格を必要とする。

(加藤誠次郎)

でんわかんさき 電話監査機 (英) audition board 共電式交換機その他に収容されている各種回線、および扱者電話回路の通話状態を監査監督するために設備されているもの。つまり監査機によって各種回線の応答時間、通話時間、通話内容、通話系統、間げき時間等を調査することにより、サービスの速度・正確度等を知り設備設計の参考資料が得られる。また交換機取

扱者および通話者の応答の遅速、用語・通話信号の適否等を調査することにより、執務状態の監視、不良取扱のきょう正等を行うこともできる。

写真は現在国鉄において採用されている1台1座席の電話監査機である。

監督線回路は扱者、共電式監査線回路は共電式加入者、磁石式監査線回路は磁石式中継線および接続線おののの監査に使用される。

監査者が共電式あるいは磁石式回線を監査するときは、本配線盤および中間配線盤で回線を監査台に割込み、監査ひもプラグを監査線ジャックにそう入し、電鍵を聴話側に倒せば、その回線の通話状態を監査者が割込み聴話することができる。またラインランプ・話中ランプの点火によって、回線の呼出し、話中の状態を知ることができる。

電話監査機容量実装表

種 別	容 量	実 装
監査線回路 (共電加入者線用)	5	5
〃 (磁石回線用)	10	10
聴話ひも回路	2	2
〃 (度数計付)	2	2
共電監査ひも回路	2	2
磁石 〃	2	2
扱者監督線回路	40	40
扱者電話回路	1	1
ヒューズ警報回路	1	1
予備灯回路	1	1

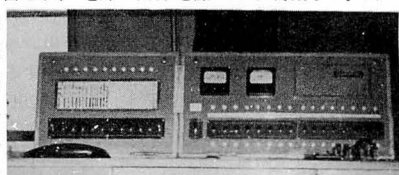
監督線ジャックはこれに聴話ひもプラグをそう入することにより、監督線回路はそれぞれの交換機扱者電話回路に割込み、扱者の執務状態を監督することができる。(相原 茂)

でんわしゅうちゅうそうち 電話集中装置 従来の信号所・運転掛事務室などでは磁石式接続電話機、単独加入電話機、指令電話機等数個の電話機が設置されていて、扱者はどの電話機が呼ばれているか判別するのが非常に困難であった。最近信号所の継電連動化に伴って通信設備も、これら形式の異なる電話機を整理する必要が生じ、一種の交換装置である電話集中装置を使用するようになった。この装置は地気呼出しランプ式、ネオン管式の2種に分けられる。

1 地気呼出しランプ式 この方式は机上に置いて操作するもので、継電器は機の片袖内に収容している。トークバックを使用する場合はトークバック操縦机を兼用している。この方式は卓上形(写真-1)水平形(両面操作)の2種がある。

(1) 通話装置は原則として1個で予備を設け、送受器半埋込形と4号電話機式とある。(2) 接続は電鍵(けん)式で下方は通常通話用、上方を予備とする。(3) 表示はランプ表示で応答するまで表示が保留され、電鈴は局部電源により鳴動する。(4) 信号方式は交換

電話線は共電交換機の中継回路で、磁石回線は対地気継電器監視式である。したがって加入磁



1. 地気呼出しランプ式(左)